

# 北アルプス(黒部・五竜・針ノ木・白沢天狗)生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局 富山森林管理署・飛騨森林管理署
所在地	富山県中新川郡立山町、長野県大町市
面積	10,752.87 ha
設定年月日	平成3年4月1日（平成30年再編）
保護林の概要 (設定目的)	黒部峡谷や山崎圏谷（カール）、五竜岳、鹿島槍ヶ岳など、北アルプス特有の特異な地形・地理と相まった高山帯の原生的な植生を有している。また、亜高山帯から高山帯にかけて、貴重な植物が豊富に分布している。これら一帯の地域の貴重な森林生態系の保護・管理を図る。



## モニタリング調査の概要

実施年度	令和5年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（毎木調査・植生調査）を2プロット、森林概況調査として植物相調査・定点写真撮影を実施し、過年度の調査結果と比較した。
結果概要	北アルプス特有の山岳地形の亜高山帯から高山帯にかけて、貴重な植物が豊富に分布している。白沢天狗山東側の斜面では、ブナ、ミズナラ、ネズコ等から構成される落葉広葉樹林や、コメツガ等が優占する亜高山帯針葉樹林が発達している。なお、プロット付近ではツキノワグマによる常緑針葉樹への剥皮が確認されているが、過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、保護林の健全性は保たれている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

## 雨飾・天狗原山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局 中信森林管理署
所在地	長野県北安曇郡小谷村
面積	1,565.06 ha
設定年月日	昭和56年4月1日（平成3年区域拡張、平成8年区域変更）
保護林の概要 （設定目的）	日本海型気候帯に属し、我が国有数の豪雪地帯である雨飾山（1,963m）、天狗原山（2,197m）周辺におけるミヤマナラ、コメツガ、ブナ、オオコメツツジ、ミヤマハンノキ等から構成される植物群落を保護することを目的とする。



### モニタリング調査の概要

実施年度	令和5年度
調査項目	森林詳細調査、高山植生調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（毎木調査・植生調査）を2プロット、高山植生調査を1プロット、森林概況調査として植物相調査・定点写真撮影を実施し、過年度の調査結果と比較した。
結果概要	ブナ、カエデ等を中心とした落葉広葉樹林からオオシラビソ等の亜高山帯針葉樹林、ハイマツ群落や高山植生群落、湿原など多様な植生が確認され、また地域固有性の高い植生が維持されている。 ハイマツの一部に風雪害の被害が確認されたが、保護林全体としては過年度調査と比較して大きな変化は確認されず、健全性は保たれている。 雨飾山は登山者も多く、外来種移入などの植生への影響に注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

# 北アルプス(蝶ヶ岳・大天井岳・槍ヶ岳・穂高岳)生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局 中信森林管理署
所在地	長野県松本市、安曇野市
面積	7,161.15 ha
設定年月日	平成3年4月1日（平成30年再編）
保護林の概要 (設定目的)	奥穂高岳、槍ヶ岳等の我が国有数の山岳が連なる上高地上流部の地域は、涸沢カールをはじめとする氷河地形や、豊かな自然景観を誇っており、中部山岳国立公園の核となっているばかりでなく、我が国を代表する山岳景勝地である。コメツガ、シラビソ等から構成される亜高山帯、ハイマツ等から構成される高山帯、さらに高山植物群落がある。



## モニタリング調査の概要

実施年度	令和5年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（毎木調査・植生調査）を1プロット、森林概況調査として植物相調査・定点写真撮影を実施し、過年度の調査結果と比較した。
結果概要	亜高山帯下部にはシラビソ、オオシラビソ、コメツガ、ネズコ等の常緑針葉樹林が見られ、その上部にはダケカンバ群落が分布し、稜線付近の高山帯にはハイマツ群落や雪田植生、風衝矮性低木群落等が確認された。過年度調査と比較して大きな変化は確認されず、保護林の健全性は保たれている。 当該保護林には日本百名山が3座あること、3,000m級の山々が連なることから登山者も多く、幕営地等の周辺において登山者による植生への影響に注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

# 鷲羽岳・硫黄岳・高瀬溪谷生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局 中信森林管理署
所在地	長野県大町市
面積	2,550.30 ha
設定年月日	平成6年4月1日（平成30年再編）
保護林の概要 （設定目的）	鷲羽岳の南、東斜面及び真砂岳の南斜面に位置し、亜高山帯に至る高山草原、低木群落等の原生的な植生となっている。また、硫黄岳と赤岳を結ぶ硫黄尾根の北斜面は、硫気噴出の影響等により全山にわたって生息している植生の数は少ないが、岸壁・岩隙植物群落がみられる。これらの特異な地理等からなる生物群集の保護を目的とする。



## モニタリング調査の概要

実施年度	令和5年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（毎木調査・植生調査）を2プロット、森林概況調査として植物相調査・定点写真撮影を実施し、過年度の調査結果と比較した。
結果概要	湯俣川左岸はカラマツ、キタゴヨウ、コメツガ等から構成される亜高山帯針葉樹林の原生的な植生が確認された。また、硫黄岳の北斜面の上部にはダケカンバ群落、下部には亜高山帯針葉樹林が分布している。硫黄岳から赤岳を結ぶ硫黄尾根は硫気噴出の影響等により植生が少なく裸地化しており、岸壁・岩隙植物群落が分布している。竹村新道沿いの立木にニホンジカによる新しい剥皮が見られたが、保護林全体としては過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、健全性は保たれている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

## 梓川・霞沢・焼岳生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局 中信森林管理署
所在地	長野県松本市
面積	2,572.24 ha
設定年月日	平成3年4月1日（平成8年分割、平成30年再編）
保護林の概要 （設定目的）	大正4年の大爆発による泥流で梓川をせき止め、大正池を出現させた焼岳は、現在も活動している北アルプス唯一の活火山である。松本市安曇から上高地に至る梓川沿いは、V字谷渓谷と水力発電用ダム湖及び周辺のミズナラ、カエデ等から構成される貴重な天然生広葉樹林となっており、これらの植物群落を一体的に保護することを目的とする。



### モニタリング調査の概要

実施年度	令和5年度
調査項目	森林詳細調査、森林概況調査、資料調査、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査（毎木調査・植生調査）を3プロット、高山植生調査を1プロット、森林概況調査として植物相調査・定点写真撮影を実施し、過年度の調査結果と比較した。
結果概要	ハイマツ群落等の高山植生やダケカンバ群落、高茎草本群落、亜高山帯針葉樹林、ブナ群落、針広混交林が確認された。過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、保護林の健全性は保たれているが、ニホンジカの被害や痕跡が確認されており、また、気候変動や夏の渇水等により高山植生に影響が生じる可能性も考えられるため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。